

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際

カ 検証結果<中学校(学級)>

【検証の視点 I - A : 関心】

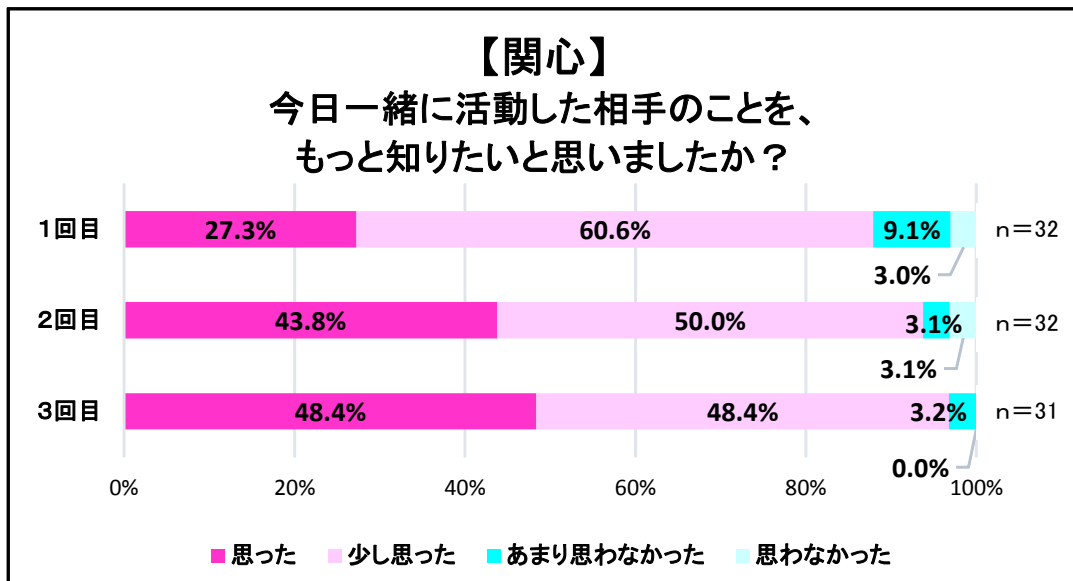


図1 生徒の友達に対する関心の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、1回目が87.9%、2回目が93.8%、3回目が96.8%でした。その理由として、「今まであまり話したことの無い人と話すことができ、その人のことを知ることができたから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、1回目が12.1%、2回目が6.2%、3回目が3.2%でしたが、その理由として、「小学校から一緒ですでに知っていたので、それほど知りたいとは思わなかったから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点 I - B : 親近感】

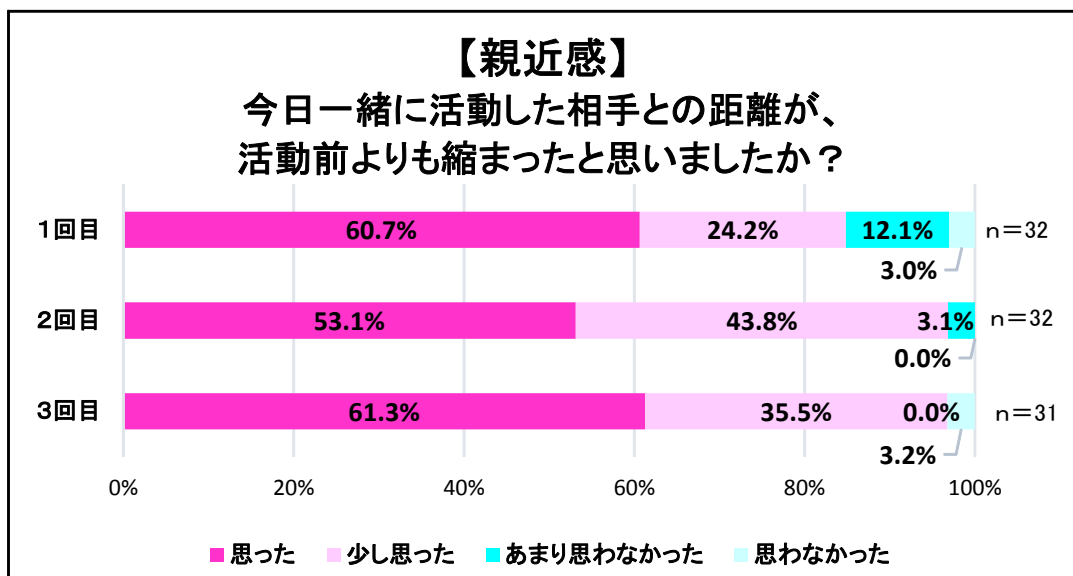


図2 生徒の友達に対する親近感の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、1回目が84.9%、2回目が96.9%、3回目が96.8%でした。その理由として、「一緒に活動することで、その人の意外な面を知り、距離が縮まったと思うから」「授業の後、話しやすくなったから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、1回目が15.1%、2回目が3.1%、3回目が3.2%でしたが、その理由として、「前から仲が良かったから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅰ－C：仲間意識】

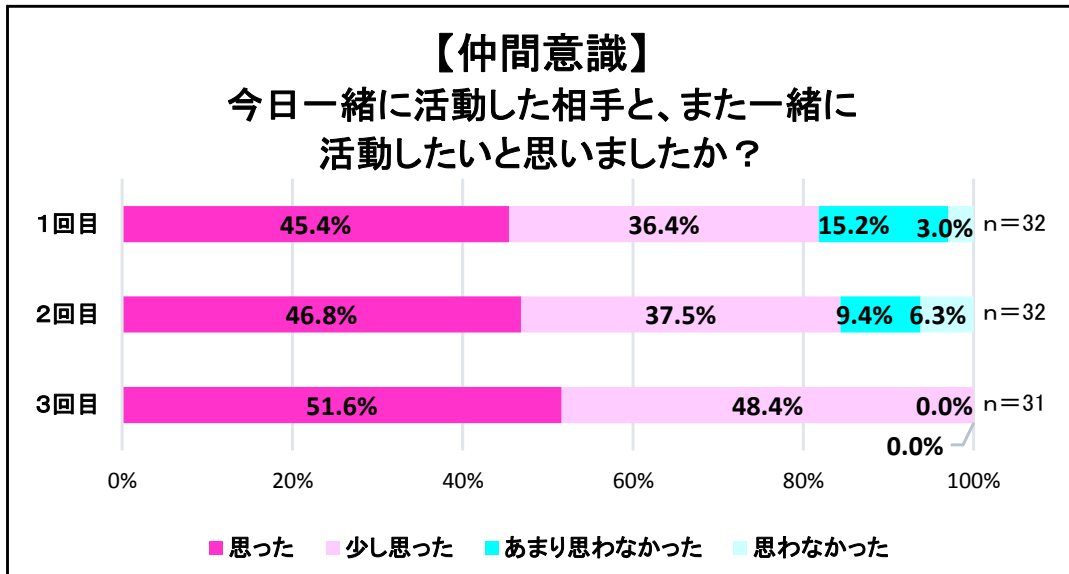


図3 生徒の友達に対する仲間意識の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、1回目が81.8%、2回目が84.3%、3回目が100%でした。その理由として、「もっと仲良くなりたいから」「もっと友達のことを知りたいと思ったから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、1回目が18.2%、2回目が15.7%、3回目が0.0%でしたが、その理由として、「グループ以外の人のも知りたいから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はグループでの活動を通して、学級の友達に対する仲間意識を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅱ－A：学級の雰囲気】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

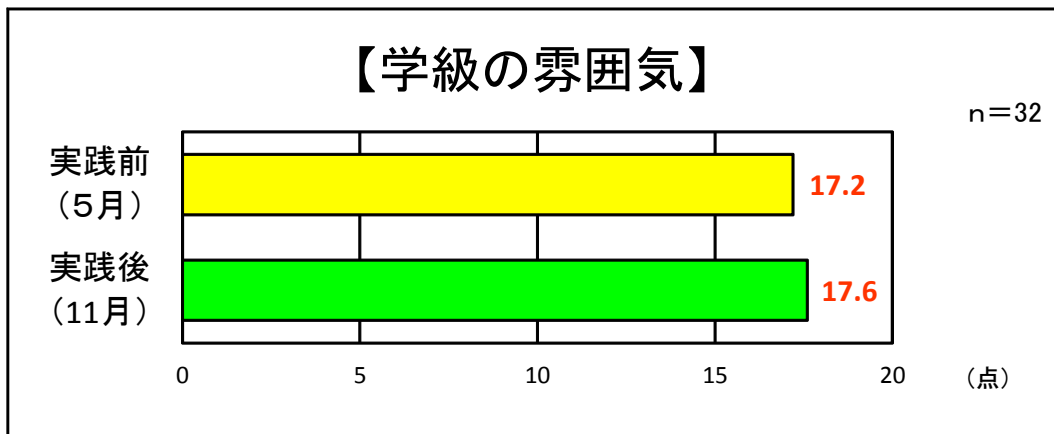


図4 生徒の学級の雰囲気に対する意識と行動の変化

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が0.4ポイント上がりました。また、生徒のワークシート等には、学級の雰囲気について「活動を通して、友達の意見や思いを知ること、互いを理解し気持ちよく過ごしていける」「友達のことを知ることができてとても嬉しかった。これから学級の誰とでも話せると思う」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は、グループでの活動を通して、今後、学級の雰囲気が良くなっていくと感じていると考えることができます。

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

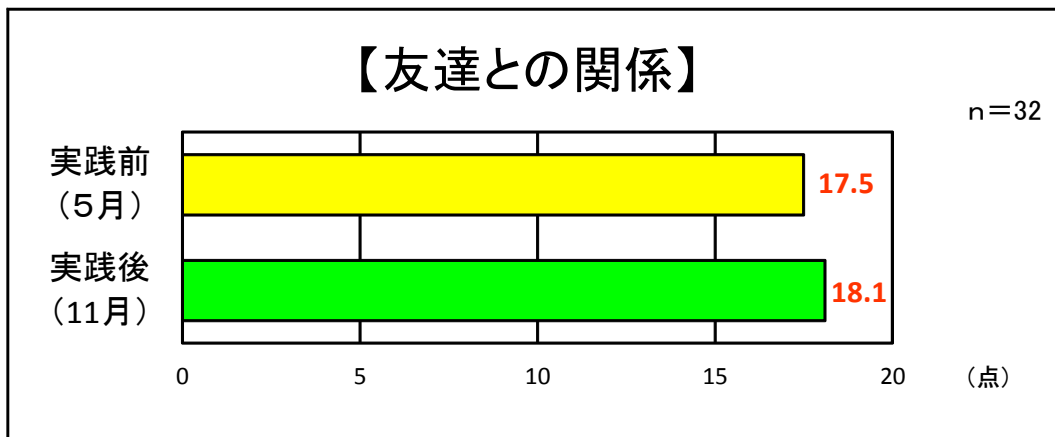


図5 生徒の友達との関係に対する意識と行動の変化

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が0.6ポイント上がりました。また、生徒のワークシート等には、友達との関係について「普段あまり話すことのない友達と活動して、とても楽しかった。他の友達ともっと話して仲良くなりたい」「友達と話をするとき、目を見て、表情や口調に気を付けると、嫌な気持ちにならず、友達との関係がうまくいくと思う」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は、グループでの活動を通して、今後、友達との関係が良くなっていくと感じていると考えることができます。